

令和元年度 第63回日本読書学会大会プログラム

日程：2019年7月28日（日） 10：00～18：30

〈10:00～〉受付

〈10:30～12:00〉個人研究発表

第一会場（603号室） / 第二会場（604号室）

〈12:10～13:40〉理事会（603号室）

〈13:50～14:20〉総会（604号室）

〈14:20～14:40〉表彰式（604号室）

〈14:50～16:20〉個人研究発表

第一会場（603号室） / 第二会場（604号室）

〈17:00～18:30〉懇親会（502号室）

※懇親会は研究情報交換会と交流親睦の会にしたいと思います。多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

場所：林野会館（東京都文京区大塚3丁目28番7号 電話03-3945-6871）

*地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅から徒歩7分、筑波大学附属小学校正門近く

<http://rinyakaikan.or.jp/index.html>

参加費：会員3000円、非会員3500円、学生2000円

懇親会費：2000円

*いずれも当日のみ受付いたします。

大会実行委員会

実行委員長：甲斐雄一郎（筑波大学）

副実行委員長：藤森裕治（信州大学）

事務局長：長田友紀（筑波大学）

実行委員：宮澤優弥（筑波大学）

プログラム： *20分発表、10分質疑応答

〈10:30~12:00〉個人研究発表

第一会場【603号室】 司会：上谷順三郎（鹿児島大学）・藤木大介（広島大学）

①『二十四の瞳』の編集と出版

大庭一郎（筑波大学）・古木茜（茨城県庁）

②児童が実感する読書へのアニメーションの効果

足立幸子（新潟大学）

③言語と絵画による構造的な理解—古典の場合—

山田丈美（中部学院大学）

第二会場【604号室】 司会：桑原隆（筑波大学）・福田由紀（法政大学）

① 利活用される学校図書館のネットワーク—公立中学校教職員間におけるつながりに着目して—

新居池津子（東京大学大学院）

②情報リテラシー学習における創造性—大学図書館司書を対象とした即興発想型カードゲーム「Libardry Card」の実践から—

石田喜美（横浜国立大学）・名城邦孝（常磐短期大学）・関敦央（常磐大学）・宮崎雅幸（常磐大学）・寺島哲平（常磐大学）

③算数・数学の授業創りへの読書の役割—昨今の状態とよりよい変化への試行—

正田良（国士舘大学文学部）

〈12:10~13:40〉理事会【603号室】

〈13:50~14:20〉総会【604号室】

〈14:20~14:40〉表彰式【604号室】

〈14:50~16:20〉個人研究発表

第一会場【603号室】 司会：岸学（東京学芸大）・足立幸子（新潟大学）

①イメージント・リテラシーの発達

小林マヤ（聖隷クリストファー大学）

②書き手の立場におけるメールの好ましき探求尺度の作成

菊池理紗（法政大学大学院）

③小中高校生の電子メディア利用と読書活動に関する調査研究

濱田秀行（群馬大学）・秋田喜代美（東京大学）

第二会場【604号室】 司会：藤森裕治（信州大学）・荷方邦夫（金沢美術工芸大学）

①「ごんぎつね」の教材解釈と授業実践についての考察

千種彰典（兵庫教育大学連合大学院）

②説明的文章読解指導における複数教材の選択観

篠崎祐介（玉川大学）・幸坂健太郎（北海道教育大学）

③よりよい要約を目指して児童はいかに言葉の見方・考え方を働かせているか—多読を取り入れた説明的文章単元における対話場面を対象に—

小久保美子（新潟大学）・一柳智紀（新潟大学）・高木幸子（新潟大学）

〈17:00~18:30〉懇親会【502号室】

*大会参加者には「発表要旨集」を配布いたしますが、さらにご希望の方には1部2000円で当日販売いたします。なお、郵送をご希望の方は以下の事務局まで送付先などをお申し込みのうえ、送料込み2500円を学会の口座までお振り込み下さい。

日本読書学会事務局（大会関連のお問い合わせはこちらへ）

〒305-8572

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学人間系教育学域 人文科教育学研究室 気付

日本読書学会事務局

Email : jra.jimu@gmail.com

URL: <https://www.readingassoc.site/>

郵便振替口座番号：00160-4-790648

郵便振替口座名称：日本読書学会

会場マップ 林野会館（旧全林野会館）



読書科学投稿へのお誘い

ただいま、「読書科学」編集委員会では皆様からの論文投稿を熱望しております。

テーマは読書活動のみならず、読む・書くといったディスコース全般、国語教育に関わるすべてのことが対象となり、間口は非常に広い学術雑誌です。また、基礎的な研究だけでなく、実践研究も大歓迎です。

投稿してから1ヶ月足らずで査読結果がお手元に届きます。このタイミングは日本の査読誌では、群を抜いて早い対応といえます。また、きめ細かく査読をしていきます。

読書やディスコースに関するデータを持っているけれど、どこに出したらいいか迷っている方はどうぞ、お気軽に「読書科学」にご投稿下さい。また、そのような方が身近にいらっしゃる場合には投稿を勧めて下さい。

編集委員会は、皆様の研究を支え、日本における読書にまつわる研究の隆盛を図りたいと希望しています。

投稿の手続きの詳細に関しては、「日本読書学会」の「雑誌「読書科学」」(<http://www.gakkai.ac/jra/journal/>)をご覧ください。

◎国際学会発表支援事業について

会員による国際学会発表に対して日本読書学会として支援する事業を本年度も募集します。支援内容は、海外渡航費の一部について、毎年度5名を限度として、一人最大10万円を上限として支援します。発表の様子は『読書科学』誌にて報告していただくこととなります。ぜひご活用いただきたいと思います。詳しくは学会ホームページをご覧ください。